

# The Gut Theory estimate with weak electric theory

## Gravity catastrophe into fourth power, in fact fifth power.

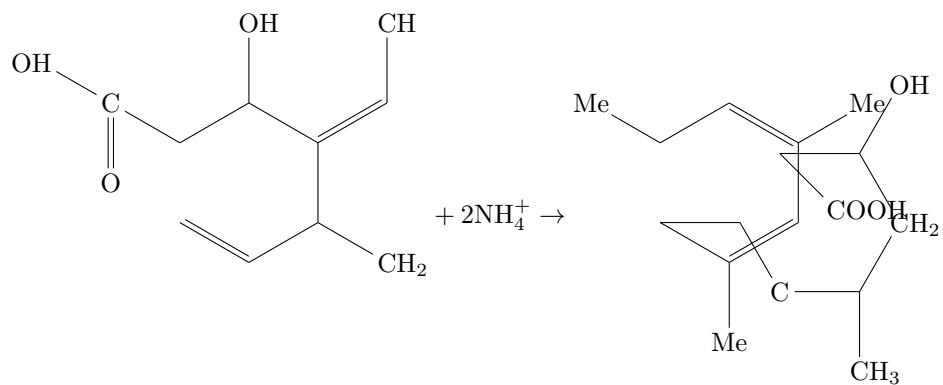
Masaaki Yamaguchi

考えを知りたい相手を、target として、血圧が低かろうが高かろうが、音読の力身で、引き寄せの法則から、相手の考えている未来と過去と現在を自身の思考に引き寄せて見ると、例えば、相手の体がどう見えるかを、これは、透視とは違い、赤外線とも違い、引き寄せで見ると、相手が服をきていようが見ることができる。念力も同じ原理でもあり、仏教は、未練を捨てる修行でもあり、気功法も同じ原理であり、苫米地博士も、捨てて手に入れる能力開発をしている。一人先生も、無を知らないと有が手に入っても、無に帰ると言っている。夢を捨てるとすべての情報が手に入るとも言っていて、夢がないといいではないか、なんでもできるではないかと言っている。フォトリーディングも、アフォーメーションで、夢を作り、フォトリーディングのあとに、この夢を捨てて、情報と目的を手に入れる能力開発をしている。SRS もしかりである。瞬読も代表理事が掃除関係であり、すごすぎる。

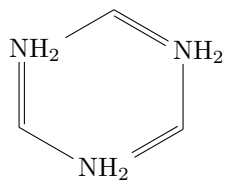
熱力学の第 1 法則は、熱エネルギー保存則、熱力学の第 2 法則は、エントロピー増大則、これより、第 1 法則より、摩擦熱があると、永久機関はつくられない。マクスウェルの方程式より、QED から、重力を分解すると、電磁場が発生する。この電磁場から発生する電磁気力を分解すると、弱い力と強い力ができる。第 1 法則から、逆の統合はない。すでに、統一場理論は、ファインマン博士とアインシュタイン博士により、見つかっている。ガンマ関数の大域的部分積分多様体が、この統一場理論になっている。

$$T' = \int \Gamma(\gamma)' dx_m$$

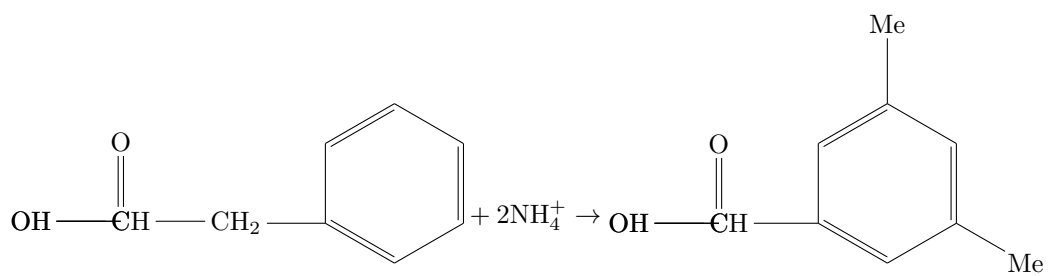
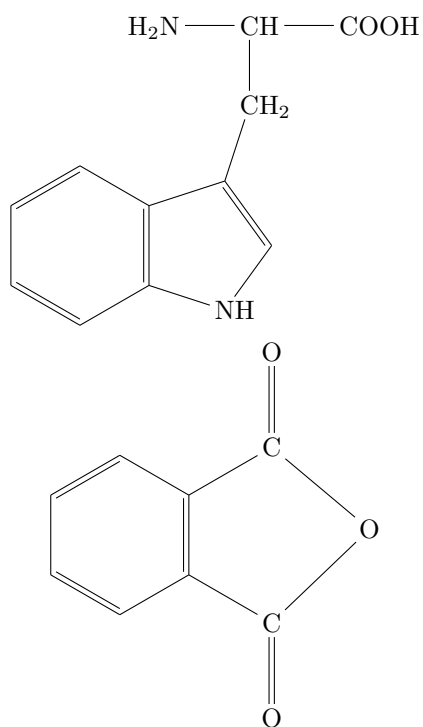
重力であるダランベルシアンの中のガンマ関数を共変微分すると、これは、実は大域的微分であり、共変微分とは、全然違う計算方法である。この重力の積分の中で微分するとは、上の説明を鑑みるとわかる。結果は、同じなれど、統一場理論になっている。電磁場を弱い力と強い力に統合できるが、それが電弱相互作用であるが、熱力学の第 1 法則より、重力とは、この法則の逆より、本当は、重力を分解していくと、宇宙の真理の統一場理論が、重力だけで事足りるのがわかる。逆の統合はないとおもう。カタストロフィー理論から、形態形成場理論もあり、自己組織化現象もあるので、自信はない。時間の流れが未来から過去より、この時間が、ガンマ関数の大域的部分積分多様体より、あるかもしれない。逆を探すより、重力を分解していく統一場理論の方がすんなり言える。情報科学の世界では、逆がある。コップが割れると、破片になり、逆は、コップがくっつかないもとに戻せない。素粒子同士をくっつけているのが、中間子力であり、世界にながらあるかわからない。



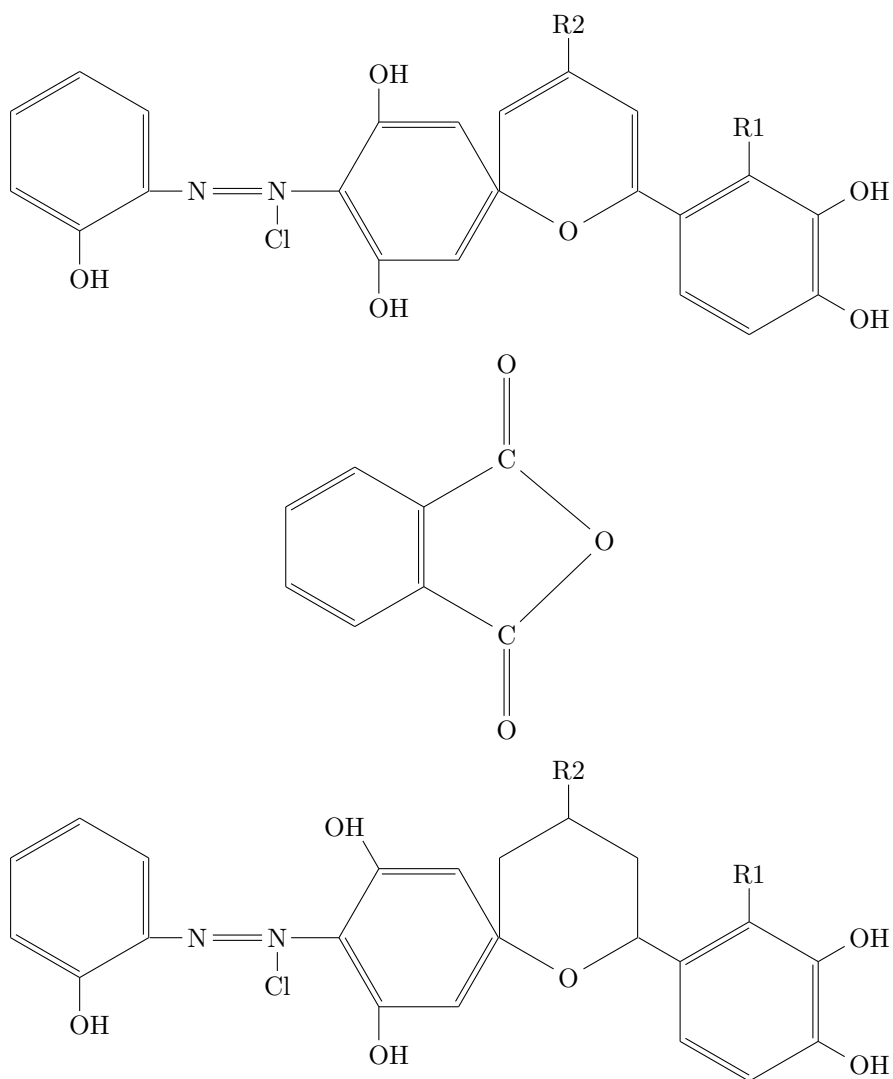
ジプレキサが、頭頂葉のポートを制御している役割を担っている。



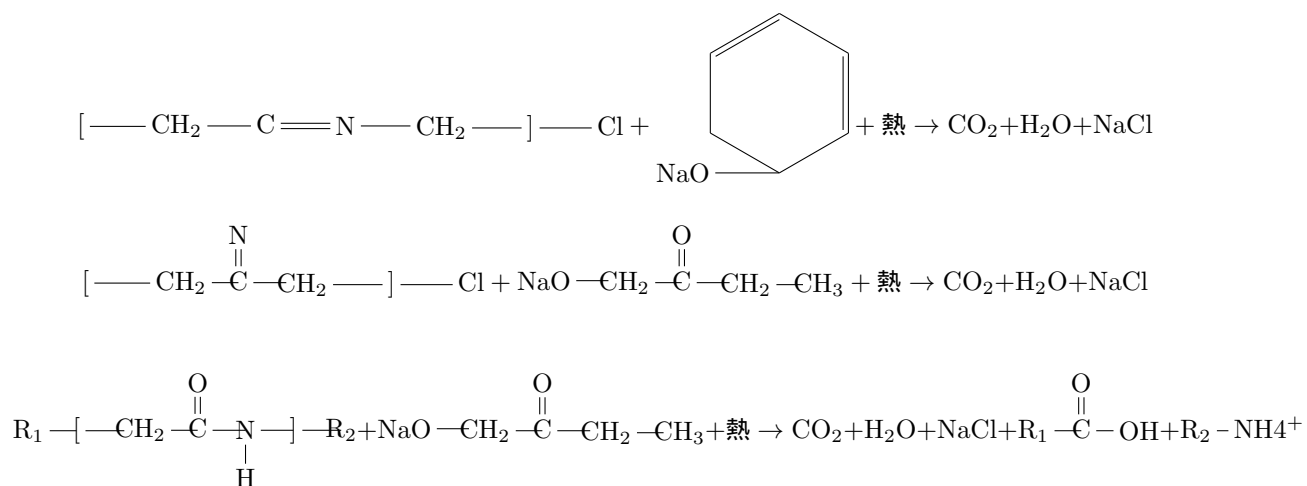
プリン体のアミン基と酸素を全部アミン基にしている。

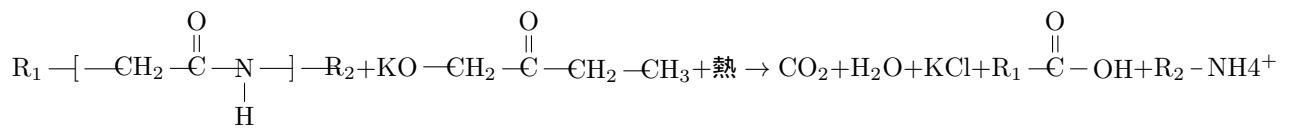


無水フタル酸とアセチルサリチル酸、サリチル酸メチル基について

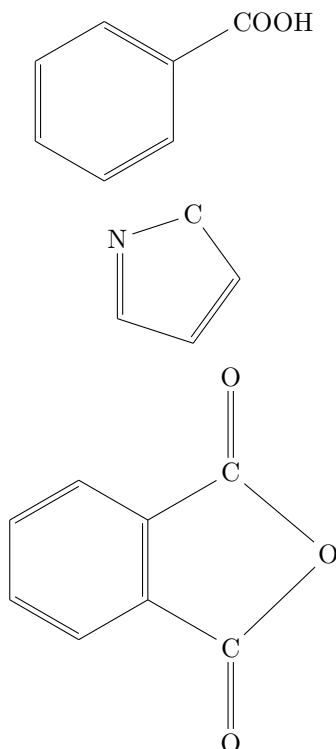


ベンゾジアゼピンとメジャーランキライザーとマイナーランキライザーについて





ナトリウムプロパノキシドとカリウムプロパノキシドが、この式で表されている。この化学式から推算式でもある、プラスチックと二酸化ケイ素、塩化ビニールが分解されるのが、真逆の人が服用すると、プラバスタチンとスリムドガンと同じく、推算式の数値が上がる。僧侶と同じ瞑想法と原理が一致している。



これらの構造式は、それぞれ、ヒドロキシ基、カルボニル基、カルボキシル基、アミン基、ギ酸、アセチル基、アセト基、グリシン、アミノ酸の20種類の一基、ビタミンCはシス・トランス型があり、松果体に作用して、体内の血流を調節する。 $-C \equiv N - Cl$ の真逆の作用をする。グリシンには、20種類のアミノ酸の中で唯一L,R基が無い。不斉炭素原子が無い。

推算式のを減らすか増やすのに、血圧と血流、体内の精神作用のドーパミンの調節をeGFRの機能を上げると、結果、すべての精神作用物質が調節できる。

重力を分解したら、重力と反重力ができる。

$$\nabla_i \nabla_j (\square \psi) = \square + \not{\square}$$

ここで、反重力は

$$\not{\square} = \frac{8\pi G}{c^4} T^{\mu\nu} / \log x$$

と言える。

原子を分解したら重力になり、宇宙を分解したら原子になる。

$$\begin{aligned} & \left( R^{\mu\nu} + \frac{1}{2} \Lambda g_{ij} \right)^{\mu\nu} \\ &= \kappa (T_e^{\mu\nu} + T_y^{\mu\nu} + T_g^{\mu\nu} + T_h^{\mu\nu} + \cdots) \\ & \frac{d}{dM} (\kappa T^{\mu\nu}) \rightarrow \bigoplus (i\hbar^\nabla)^{\oplus L}, H\Psi = i\hbar\psi \end{aligned}$$

重力から原子への分解 (1)

$$\bigoplus (i\hbar^\nabla)^{\oplus L} \rightarrow \frac{d}{dM} (\kappa T^{\mu\nu})$$

原子から重力への分解 (2) この (1) と (2) はベクトルの向きが違い、両方共、加群分解である。

$$||ds^2|| = \lim_{x \rightarrow \infty} [\delta(x) \int \int \int \pi \left( \sum_{k=0}^{\infty} \frac{n \sqrt{p}, x}{n} \right)^{\frac{1}{2}} d\tau]^{\mu\nu}$$

種数を分解していったら、8種類の微分幾何、サーストン・ペレルマン多様体になり、心の影が宇宙を投影している代表が潮汐力、月の引力が地球に素粒子として影響を与えている。

$$||ds^2|| = \int [D^2\psi \otimes h\nu] d\tau$$

として、D-brane が、この種数の分解の元になっている。

$$= \frac{d}{dM} F$$

と、微分基底に多様体 M をとっている。

正規部分群による回転行列がベータ関数に行き着く。複素行列が虚数を因数にもつ素粒子方程式にもなる。

8種類の微分幾何がそれぞれの固有の時間をもっている。M 理論の種数を

$$\frac{d}{dM} F$$

で分解していったら、

$$= \frac{d}{df} F = -2 \int \frac{(R + \nabla_i \nabla_j)}{(\Delta + R)} e^{-f} dV$$

の各展開していった数式に分かれる。この数式が Seifert manifold

$$= (x, y, z) / \Gamma$$

である。

重力場の積分記号の中で微分したら、積分記号の中は、電磁場方程式になり、大域的多様体となり、重力を分解したら、電磁場になり、その解が弱い力と強い力になる。QED は、光をプリズムで分解したら、すべての幾何構造が生成される。そのプリズム自体が、サーストン・ペレルマン多様体である。

$$\begin{aligned} \int (\kappa T^{\mu\nu})^\nabla dx_m &= \int e^{x \log x} \operatorname{div}(\operatorname{rot} E) dx_m \\ &= e^{-x \log x} \end{aligned}$$

と、統一場理論の仕組みが、逆問題に行き着く。

宇宙の前には、無があり、無の前には、無限の時間があつた。無を加群分解したら、宇宙ができて、無を差分分解したら、時間ができた。空間の相対性がないと、無になり、磁気単極子が存在できる。無とは、仏教であり、十二支縁起でもあり、時間とは、神様でもあり、仏様でもある。無の前には、無限の時間があつた。

数学は、仏様と神様を見る学問である。神様と仏様の論争で、神様が遠慮したので、仏様の時間が神様の方位と対等になり、仏様の前が、神様の時間でもあるのが、数学が哲学を述べる学問にもなっている。

無を加群分解したら、宇宙になり、その宇宙を加積分解したら、ベータ関数になる。微分幾何の量子化は、原子を加群分解したら、宇宙になり、宇宙を加群分解したら、多宇宙にもなり、原子にもなる。原子を加積分解したら、ベータ関数になる。多宇宙を加群分解したら、原子であり、原子を加群分解したら、素粒子になり、その前には、無があり、その前には、時間があつた。

今の現在の宇宙には、宇宙の前の無があり、その前の時間が存在していて、今の宇宙には、神様と仏様を超えた存在の時間がある。禅を体験するとは、この時間の存在を、宇宙を超えた学問を知ることでもある。一般相対性理論の多様体積分が、一般相対性理論の大域的多様体を知ると、この無と時間の存在を数学を用いて、体験することが、物理学の本来の存在としての学問でもあるのがわかる。哲学を追求すると、数学になり、物理学にもなる。今を感じるとは、宇宙の前の無と時間を感じて、神様以上の存在を知ることでもある。仏様以上の存在も感じる事が可能らしい。それが、時間らしい。

時間の未来と過去が同時になるときがあるらしい。

今、大域的積分多様体に微分を入れると、大域的部分積分多様体ができる。ガンマ関数の大域的微分多様体と同型らしい。

大域的多重積分と大域的無限微分多様体を定義すると、Global assemble manifold defined with infinity of differential fields to determine of definition create from Euler product and Gamma function for Beta function being potten from integral manifold system. Therefore, this defined from global assemble manifold from being Gamma of global equation in topological expalanations.

$$\begin{aligned}
\int f(x)dx &= \int \Gamma(\gamma)' dx_m \\
&= 2(\cos(ix \log x) - i \sin(ix \log x)) \\
\left( \frac{\int f(x)dx}{\log x} \right) &= \lim_{\theta \rightarrow \infty} \left( \frac{\int f(x)dx}{\theta} \right) = 0, 1 \\
e^{i\theta} &= \cos \theta + i \sin \theta \\
\left( \int f(x)dx \right)' &= 2(i \sin(ix \log x) - \cos(ix \log x)) \\
&= 2(-\cos(ix \log x) + i \sin(ix \log x)) \\
&= (\cos(ix \log x) - i \sin(ix \log x))' \\
&= \frac{d}{de^{i\theta}} ((\cos, -\sin) \cdot (\sin, \cos)) \\
\int \Gamma(\gamma)'' dx_m &= \left( \int \Gamma(\gamma)' dx_m \right)^{\nabla L} = \left( \int \Gamma dx_m \cdot \frac{d}{d\gamma} \Gamma \right)^{\nabla L} \leq \left( \int \Gamma dx_m + \frac{d}{d\gamma} \Gamma \right)^{\nabla L} \leq (e^f - e^{-f} \leq e^{-f} + e^f)' \\
&= 0, 1
\end{aligned}$$

Then, the defined of global integral and differential manifold from being assembled world lines and partial equation of deprivate formula in Homology manifold and gamma function of global topology system, this system defined with Shwaltsschild cicle of norm from black hole of entropy exsented with result of monotonicity for constant of equations. 以上 より、大域的微分多様体を大域的 2 重微分多様体として、処理すると、ホモロジー多様体では、種数が 1 であり、特異点では、種数が 0 と計算されることになる。ガンマ関数の大域的微分多様体では、シュバルツシルト半径として計算されうるが、これを大域的 2 重微分で処理すると、ブラックホールの特異点としての解が無になる。

川島隆太先生が、私みたいな人が、頭の中で偏微分や多重積分、部分積分、共変微分や、置換積分や、複素微分や複素積分を考えていると思っていたと言っていたが、それ以上の大域的微分や大域的 2 重微分や、大域的多重積分や大域的偏微分や大域的部分積分、微分幾何の量子化、単体積分、単体微分などの、大学院生でも考えない、思いもしない、実際の式を書くときでも、その関数と多様体が存在すると思うしかできない、私の記述式を見ると納得する理論式でもあると、私も自慢できる理論であると自負できる。

$$\log x|_{g_{ij}}^{\nabla L} = f^{f'}, F^f|_{g_{ij}}^{\nabla L} : x \rightarrow y, x^p \rightarrow y$$

$$f(x) = \log x = p \log x, f(y) = p \log x$$

大域的偏微分方程式と大域的多重積分は、それぞれ次のように成り立っている。It's defined with global partial deprivate formula and assemble manifold.

$$\frac{d^2}{df^2} F = F^{f'} \cdot f^{f''},$$

$$\int \int F dx_m = F^f \cdot F^{(f)'}$$

$$\frac{d}{df dg} (f, g) = (f \cdot g)^{f' + g'}$$

大域的部分積分も、次のように成り立っている。And, global parcial integral equation also established with global topology computations. therefore, this circutation exclude for all of topology extension ideas.

$$(F^f \cdot G^g) = \int (f \cdot g)^{f' + g'}$$

$$\int \int F \cdot G dx_m = [F^f \cdot G^g] - \int (f \cdot g)^{f' + g'}$$

大域的部分積分の計算は、

$$\int \frac{d}{df dg} FG = \int F^{f'} G + \int FG^{g'}$$

$$\int F^{f'} G dx_m = [F^f G^g] - \int FG^{g'} dx_m$$

大域的商代数の計算は、Global quato algebra computations also,

$$\left( \frac{F(x)}{G(x)} \right)^{(fg)'} = \frac{F^{f'} G - FG^{g'}}{G^g}$$

大域的偏微分方程式は、縮約記号を使うと、

Global partial manifold explain with reduction of operator for being represented from partial equation of references.

$$\frac{d}{dfdg}FG = \frac{d}{df_m}FG$$

$$\frac{\partial}{\partial f_m}FG = F^{f^{\mu\nu}} \cdot G + F \cdot G^{g^{\mu\nu}}, \int F dx_m = F^f$$

多様体による大域的微分と大域的積分が、エントロピー式で統一的に表せられる。

Entorpy computation from integrate for being manifold of global deprivate and integrate formulas. ベータ関数をガンマ関数へと渡すと、Gamma function sented for Beta function of inspiration with monitonicity of component with differential and integral being definitions.

$$\beta(p, q) = \frac{\Gamma(p)\Gamma(q)}{\Gamma(p+q)}$$

ここで、単体的微分と単体的積分を定義すると This area defined with different and integrate of component with global topology.

$$t = \Gamma(x)$$

$$T = \int \Gamma(x) dx$$

これを使うのに、ベータ関数を単体的微分へと渡すために、for this system used for being is conbiniate with beta function for componenet of deprivate eqaution.

$$\beta(p, q) = - \int \frac{1}{t^2} dt$$

大域的微分変数へとするが、This point be for global differential variable exchanged,

$$T_m = \int \Gamma(x) dx_m$$

この単体的積分を常微分へとやり直すと、This also point be for being retried from ordinary differential computation for component of integral manifold.

$$T' = \frac{t'}{\log t} dt + C(C \text{ は積分定数})$$

これが、大域的微分多様体の微分変数と証明するためには、This exceed of proof being for being defined with deprivate variable of global differential formula, this successed for true is,

$$dx_m = \frac{1}{\log x} dx, dx_m = (\log x^{-1})'$$

これより、単体的微分が大域的積分へと置換できて、Therefore, this exchanged from mononotocity deprivation from global parital integral manifold is able to,

$$T' = \int \Gamma(\gamma)' dx_m$$

微分幾何へと大域的積分と大域的微分多様体が、加群分解の共変微分へと書き換えられる。After all, these exchanged of monotonicity deprivation successed from being catastrophe of summativate of partial and



assemble of deprivations for differential geometry of quantum level to global integral and differential manifold.

$$\bigoplus T^\nabla = \int T dx_m, \delta(t) = t dx_m$$

this excluded of being conclusion are which beta function evaluate with mononicity from ordinary differential equation be resulted from component of deprivation and integral expalanations. This cirtutation be resenbled to define with global topoloty of extention extern of deprivate and integral of manifolds estourced with quantum level of differential geometry be proofed with all of equation anbrabed from Euler product. これらをまとめると、ベータ関数を単体的関数として、これを常微分へと解を導くと、単体的微分と単体的積分へと定義できて、これより、大域的微分多様体と大域的積分多様体へとこの関数が存在していることを証明できるのを上の式たちからわかる。この単体的微分と単体的積分から微分幾何を書けることがわかる。

虚数の虚数倍した値が超越数の  $x$  倍と同じとすると、超越数の  $2\pi m$  倍が  $n = 1$  で  $i$  となると定義すると、次の式たちが導かれる。 Imaginary pole circulate with twigled of pole in step function from Naipia number of assembled from equalation of defined are escourted to be defined with next equations.

These defined equation are climbate with idea of equation from Caltan of imaginary number of circulation. カルタンを超えているアイデアと数式たちでもある。

$$i^i = (\sqrt{i})^{\sqrt{i}} = e^{x \log x}$$

$$e^x = i, e^{2\pi m} = i^n, \frac{d}{dx} e^{2\pi m} = i^n$$

$$e^{i\theta} = \cos \theta + i \sin \theta, e^{2\pi m} = i^n$$

$$2\pi m = n, e = i (e = i \text{ となる } e^{i\theta} = \cos \theta + i \sin \theta \text{ の範囲で } 2\pi m \text{ がある。})$$

$$\frac{d}{di} i = i^i = e^{x \log x}, m = \frac{1}{2\pi}, l = 2\pi r, \pi = \frac{l}{2r}$$

$$||ds^2|| = e^{-2\pi T ||\psi||} [\eta_{\mu\nu} + \bar{h}(x)] dx^\mu dx^\nu + T^2 d^2\psi$$

$$e^x = i, e^{2\pi m} = i^n, e = i$$

$$[\eta_{\mu\nu} + \bar{h}(x)] dx^\mu dx^\nu / i = H\Psi = i\hbar\psi, H\Psi = \frac{1}{i} [H, \Psi]$$

ハイゼンベルク方程式が  $AdS_5$  多様体の原子レベルの方程式も表せられる。微分幾何の量子化の式は、Hisenbelg equation are represeted from AdS5 manifold to particle level equalation of quantum levle of differential geometry entranced.

$$\bigoplus (i\hbar^\nabla)^{\oplus L} = e^{ix \log x} e^{ix \log x'}$$

$$H\Psi = \bigoplus \frac{H\Psi}{\nabla L}$$

$$\Gamma = \int e^{-x} x^{1-t} dx$$

$$\gamma = \int e^{-x} x^{1-t} \log x dx$$

$$= \int \Gamma(\gamma)' dx_m$$

$$= \frac{d}{d\gamma} \Gamma$$

Eight differential geometry are each intersect with own level of concept from expalanation of Euler product system. This component of three manifold sergeried with geometry of destroy and desect with time element of Stokes equation. 8種類の微分幾何では、それぞれの時間の固有値が違う。閉3次元多様体上で微分幾何の切除、分解によって時間の性質が決まる。This manifold gut theory from described with zeta function to catastrophe for non tree of routs result on sergery of space system. 閉3次元多様体に統合されると、ゼータ関数になり、各幾何に分解された場合に、非分岐から、この上、sergeryの結果が決まる。

各微分構造においての時間発展での熱エネルギーの変化は  $E = mc^2, E = m^2 c^2$  の three manifold が微分幾何構造の変化にそれぞれ対応する。Each geometry point interacte with exchange of three manifold in Seifert structure from special relativity of equation for heat energy fluentations on time developyed from this extermaination.

$$\nabla(i\hbar\nabla)^{\oplus L}, \bigoplus (i\hbar\nabla)^{\oplus L}, \square(i\hbar\nabla)^{\oplus L}$$

These operator of equation on summatative manifolds from emerged with element of particle conclution, Euler product is resulted from this operator expalanation of locality insectations. これらの作用素が加減乗除の生成式の元、Euler Product の結論による作用素生成の論理素子でもある。Moreover, this eight geometry of differential operator are constructed with four pattern of Jones manifold from summatative formula and this system extate with special relativity references. This decieved of elemet on summatative equation routed to internext in real and imaginary pole on complex dimension, p and this dimension explation with Stokes theorem defined too. And this defined circutation of Yacobi matrix is represected with Knot theory with anstate with Jones manifold. その上に、8種類の微分幾何は、Jones 多項式の4パターンでの構成される差分と加群方程式から、特殊相対性理論をも思わせる、この差分方程式

$$\frac{d}{d\gamma} \Gamma = e^f + e^{-f} \geq e^f - e^f$$

から、8種類の代数幾何が、ストークスの定理と同じく、この Jones 多項式の固有周期が、すべての時間の流れの基軸をも内包してもいることが、わかる。この Jones 多項式は、結び目の理論をも、この周期が言い表してもいる。

$$\frac{d}{d\gamma} \Gamma + \int C dx_m = 2(\cos(ix \log x) - i \sin(ix \log x))$$

$$e^{-\theta} = \cos(ix \log x) - i \sin(ix \log x)$$

$$\int \Gamma(\gamma)' dx_m = 2(\cos(ix \log x) - i \sin(ix \log x))$$

カルーツァ・クライン空間の方程式は、

$$ds^2 = g_{\mu\nu}(x) dx^\mu dx^\nu + \psi^2(x)(dx^2 + \kappa^2 A_\mu(x) dx^\nu)^2$$

この式は、

$$ds^2 = -N(r)^2 dt^2 + \psi^2(x)(dr^2 + r^2 d\theta^2)$$

$$ds^2 = -dt^2 + r^{-8\pi Gm}(dr^2 + r^2 d\theta^2)$$

とまとめ、

$$\begin{aligned} dx^2 &= g_{\mu\nu}(x)(g_{\mu\nu}(x)dx^2 - dxg_{\mu\nu}(x)) \\ dx &= (g_{\mu\nu}(x)^2 dx^2 - g_{\mu\nu}(x)dxg_{\mu\nu}(x))^{\frac{1}{2}} \end{aligned}$$

と反重力と正規部分群の経路和となり、

$$\pi(\chi, x) = i\pi(\chi, x)f(x) - f(x)\pi(\chi, x)$$

と基本群にまとまる。シュワルツシルト半径は、

$$ds^2 = -(1 - \frac{r_s}{r})c^2 dt^2 + \frac{1}{1 - \frac{r_s}{r}} dr^2 + r^2 d\theta^2 + r^2 \sin^2 \theta d\psi^2$$

これは、カルーツァ・クライン空間と同型となる。一般相対性理論は、

$$R^{\mu\nu} + \frac{1}{2}g_{ij}\Lambda = \kappa T^{\mu\nu}$$

この多様体積分は、

$$\int \kappa T^{\mu\nu} \text{dvol} = \int \left( R^{\mu\nu} + \frac{1}{2}g_{ij}\Lambda \right) \text{dvol}$$

ガンマ関数における大域的微分多様体は、これと同型により、

$$\begin{aligned} \int \Gamma \cdot \frac{d}{d\gamma} \Gamma dx_m &\leq \int \Gamma dx_m + \frac{d}{d\gamma} \Gamma \\ &= \int \Gamma(\gamma)' dx_m \end{aligned}$$

オイラーの定数の多様体積分は、

$$\int \left( \int \frac{1}{x^s} dx - \log x \right) \text{dvol}$$

この解は、シュワルツシルト半径と同型より、

$$= e^f - e^{-f} \leq e^f + e^{-f}$$

次元の単位は多様体より、大域的微分多様体とオイラーの定数の多様体積分の加群分解は、オイラーの公式の三角関数の虚数の度解より、

$$\frac{d}{df} F + \int C dx_m = 2(\cos(ix \log x) - i \sin(ix \log x))$$

すべては、大域的微分多様体の重力と反重力方程式に行き着き、

$$\frac{d}{df} F \geq \frac{d}{df} \int \int \frac{1}{(x \log x)^2} dx_m + \frac{d}{df} \int \int \frac{1}{(y \log y)^{\frac{1}{2}}} dy_m$$

と求まる。

8種類の微分幾何での、それぞれの時間の固有値の動静は、ストークスの流体力学での、熱エネルギーの各流れの仕方で表されている。種数1の2種が種数0の球体に両辺で交わっていると、一般相対性理論における重力理論は大域的微分多様体と積分多様体についての単体量を求めるための空間の対数関数における

不変性を記述するプランクスケール と異次元の宇宙におけるスケール、ウィークスケールと言われている anti-D-brane として、この 2 種類の計量をガンマ関数とベータ関数としてオイラーの定数 とそれによる連分 数が微分幾何の量子化と数式の値を求めると同じという 予知と推測値から、広中平祐定理の 4 重帰納法のオ イラーの公式による 多様体積分と同類値として、ペレルマン多様体がサーストン空間に成り立つ と同じく、 広中平祐定理がヒルベルト空間で成り立つとしての、 これら 2 種の多様体の場の理論が、ゼータ関数が AdS5 多様体で成り立つことと、 不変量として、ゼータ関数がこの 3 種の多様体の場の理論のバランスをとる理論 として言えることである。

$$||ds^2|| = \lim_{x \rightarrow \infty} [\delta(x) \int \int \int \pi \left( \sum_{k=0}^{\infty} \frac{n\sqrt{p}, x}{n} \right)^{\frac{1}{2}} d\tau]^{\mu\nu}$$

This norm is component of fields in Hilbert manifold of space theorem rebuilt with Mobius space in Gamma Function on Beta function fill into power of rout fundamental group.

Gravity of general relativity theory describe with Cutting of space in being discatastrophed from Global differential and integral manifold of scaled levativity in plank scal and the other vector of universe scale, these two scale inspectivity of Gamma and Beta function escourted with these manifold experted in result of Differentail geometry of quantum level manifold equal with Euler product and continue parameter, moreover this product is relativity of Hironaka theorem in Four assembled integral of Euler equation.

重力場理論の式は、Gravity equation is

$$\square = -\frac{16\pi G}{c^4} T^{\mu\nu}$$

This equation quoted with being logment of formula, and this formula divided with universe of number in prime zone, therefore, this decided with varint equation is monotonicity of being composited with Weil's theorem united for Gamma function. この式は、対数を宇宙における数により求める素数分布論として、この大域的積分分断多様体がガンマ関数をヴェイユ予想を根幹とする単体量として決まることに起因する商代数として導かれる。

$$\cancel{\Box} = \frac{8\pi G}{c^4} T^{\mu\nu} / \log x$$

$$\begin{aligned} & {}^t\text{f}\!\!\!\int\!\!\!\int\!\!\!\int \text{cohomD}_\chi[\mathrm{I_m}] \\ &= \oint (px^n + qx + r)^{\nabla l} \end{aligned}$$

$$\frac{d}{dl}L(x,y) = 2 \int ||\sin 2x||^2 d\tau$$

この関数は大域的微分多様体としてのアカシックレコードの合流地点として、タブルスペースを形成している。This function esterminate with acasic record of global differential manifolds.

$$= [i\pi(\chi, x), f(x)]$$

それにより、この多様体は基本群をアカシックレコードの相対性としての存在論の実存主義から統合される多様体自身としてのタブルスペースの池になっている。And this manifold from fundamental group estermine with also this manifold estimate relativity of acasic record.

$$\frac{d}{d\gamma}\Gamma = \int C dx_m = \int (\int \frac{1}{x^s} dx - \log x) d\text{vol}$$

また、このアカシックレコードはオイラーの定数のラムダドライバーにもなっている。More also this record tupled with lake of Euler product.

$$\bigoplus (i\hbar^\nabla)^{\oplus L}$$

$$x^{\frac{1}{2}+iy} = e^{x \log x}$$

それゆえに、この定数はゼータ関数と微分幾何の量子化を因数にもつ素因子分解の式にもなっている。Therefore, this product also constructed with differential geometry of quantum level equation and zeta function.

$$= C$$

そして、この関数はオイラーの定数から広中平祐定理による 4 重帰納法のオイラーの公式からの多様体積分へのサーストン空間のスペクトラム関数ともなっている。And this function of Euler product respectrum of focus with Heisuke Hironaka manifold in four assembled of integral Euler equation..

$$C = b_0 + \frac{c_1}{b_1 + \frac{c_2}{b_2 + \frac{c_3}{b_3 + \frac{c_4}{b_4 + \dots}}}}$$

この方程式は指数による連分数としての役割も担っている。This equation demanded with continued number of step function.

$$x^{\frac{1}{2}+iy} = e^{x \log x}$$

$$(2.71828)^{2.828} = a^{a+b^b+c^c+d^d\cdots}$$

$$= \int e^f \cdot x^{1-t} dx$$

This represent is Gamma function in Euler product. Therefore this product is zeta function of global differential equation.

$$\frac{d}{df} F(v_{ij}, h) = \int e^{-f} dV [-\Delta v + \nabla_i \nabla_j v_{ij} - R_{ij} v_{ij} - v_{ij} \nabla_i \nabla_j + 2 \langle \nabla f, \nabla h \rangle + (R + \nabla f^2) (\frac{v}{2} - h)]$$

$$= \frac{d}{df} F = \frac{2 \int (R + \nabla_i \nabla_j f)^2}{-(R + \Delta f)} dm$$

これらの方程式は 8 種類の微分幾何の次元多様体として、そして、これらの多様体は曲平面による双対性をも生成している。そして、このガウスの曲平面は、大域的微分多様体と微分幾何の量子化から素因数を形成してもいる。These equation are eight differential geometry of dimension calyement. And these calyement

equation excluded into pair of dimension surface. This surface of Gauss function are global differential manifold, and differential geometry of quantum level.

$$F \geq \frac{d}{df} \int \int \frac{1}{(x \log x)^2} dx_m + \frac{d}{df} \int \int \frac{1}{(y \log y)^{\frac{1}{2}}} dy_m$$

微分幾何の量子化はオイラーの定数とガンマ関数が指数による連分数としての不変性として素因数を形成して、このガウスの曲平面による量子力学における重力場理論は、ダランベルシアン of 切断多様体がこの大域的切断多様体を付加してもある。Differential geometry of quantum level constructed with Euler product and Gamma function being discatastrophed from continued fraction style. Gravity equation lend with varint of monotonicity of level expressed from gravity of letter varient formula. これらの方程式は基本群と大域的微分多様体をエスコートしていてもいて、ヴェイユ予想がこのダランベルシアンの切断方程式たちから輸送のポートにもなっている。ベータ関数とガンマ関数がこれらのフォームラの方程式を放出していてもいて、結果、これらの方程式は広中平祐定理の複素多様体とグリーシャ教授によるペレルマン多様体からサポートされてもいる。この2名の教授は、一つは抽象理論をもう一方は具象理論を説明としている。These equation escorted into Global differential manifold and fundemental equation. Weil's theorem is imported from this equation in gravity of letters. Beta function and Gamma function are excluded with these formulas. These equation comontius from Heisuke Hironaga of complex manifold and Gresha professor of Perelman manifold. These two professors are one of abstract theorem and the other of visual manifold theorem.

## 1 Hilbert manifold in Mebius space

this element of Zeta function on integrate of fields

Hilbert manifold equals with Von Neumann manifold, and this fields is concluded with Glassman manifold, the manifold is duality of twister into created of surface built. These fields is used for relativity theorem and quantum physics.

$$||ds^2|| = \lim_{x \rightarrow \infty} [\delta(x) \int \int \int \pi \left( \sum_{k=0}^{\infty} \frac{n \sqrt{p}, x}{n} \right)^{\frac{1}{2}} d\tau]^{\mu\nu}$$

This norm is component of fields in Hilbert manifold of space theorem rebuilt with Mebius space in Gamma Function on Beta function fill into power of rout fundamental group. And this result with  $AdS_5$  space time in Quantum caos of Minkowsky of manifold in abel manifold. Gravity of metric in non-commutative equation is Global differential equation conbult with Kaluza-Klein space. Therefore this mechanism is  $T^{\mu\nu}$  tensor is equal with  $R^{\mu\nu}$  tensor. And This moreover inspect with laplace operator in stimulate with sign of differential operator. Minus of zone in Add position of manifold is Volume of laplace equation rebuilt with Gamma function equal with summative of manifold in Global differential equation, this result with setminus of zone of add summative of manifold, and construct with locality theorem straight with fundamental group in world line of surface, this power is boson and fermion of cone in hyper function.

$$V(\tau) = [f(x), g(x)] \times [f^{-1}(x), h(x)]$$

$$\begin{aligned}
\Gamma(p,q) &= \int e^{-x} x^{1-t} dx \\
&= \beta(p,q) \\
&= \pi(f(\chi,x),x) \\
||ds^2|| &= \mathcal{O}(x)[(f(x)\circ g(x))^{\mu\nu}]dx^\mu dx^\nu \\
&= \lim_{x\rightarrow\infty}\sum_{k=0}^\infty a_k f^k \\
G^{\mu\nu} &= \frac{\partial}{\partial f}\int [f(x)^{\mu\nu}\circ G(x)^{\mu\nu}dx^\mu dx^\nu]^{\mu\nu}dm \\
&= g_{\mu\nu}(x)dx^\mu dx^\nu - f(x)^{\mu\nu}dx^\mu dx^\nu \\
[i\pi(\chi,x),f(x)] &= i\pi f(x) - f(x)\pi(\chi,x) \\
T^{\mu\nu} &= (\lim_{x\rightarrow\infty}\sum_{k=0}^\infty \int\int [V(\tau)\circ S^{\mu\nu}(\chi,x)]dm)^{\mu\nu}dx^\mu dx^\nu \\
G^{\mu\nu} &= R^{\mu\nu}T^{\mu\nu} \\
\left|\begin{smallmatrix} D^m & dx \\ dx & \sigma^m \end{smallmatrix}\right|\left|\begin{smallmatrix} \cos\theta & -\sin\theta \\ \sin\theta & \cos\theta \end{smallmatrix}\right|\left|\begin{smallmatrix} x \\ y \end{smallmatrix}\right| &= \begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 0 & -1 \end{pmatrix}^{\frac{1}{2}} \\
\sigma^m\left[\begin{smallmatrix} \delta(x) & -1 \\ 1 & \epsilon(x) \end{smallmatrix}\right]^{\frac{1}{2}} &= \begin{pmatrix} i & 0 \\ 0 & -i \end{pmatrix} \\
V(M) &= \frac{\partial}{\partial f}({}^N\int [f\setminus M]^{\oplus N})^{\mu\nu}dx^\mu dx^\nu \\
V(M) &= \pi(2\int \sin^2 dx)\oplus \frac{d}{df}F^M dx_m \\
\lim_{x\rightarrow\infty}\sum_{k=0}^\infty a_k f^k &= \int (F(V)dx_m)^{\mu\nu}dx^\mu dx^\nu \\
\bigoplus_{k=0}^\infty [f\setminus g] &= \vee(M\wedge N) \\
\pi_1(M) &= e^{-f^2\int \sin^2 x dm} + O(N^{-1}) \\
&= [i\pi(\chi,x),f(x)] \\
M\circ f(x) &= e^{-f\int \sin x \cos x dx_m} + \log(O(N^{-1}))
\end{aligned}$$

Non-Symmetry space time.

$$\begin{aligned}
\frac{d}{dL}V(\tau) &= \frac{d}{df}\int\int_M\frac{1}{(x\log x)^2}dx_m+\frac{d}{df}\int\int_M\frac{1}{(y\log y)^{\frac{1}{2}}}dy_m \\
\epsilon S(\nu) &= \square_v\cdot\frac{\partial}{\partial\chi}({}^5\sqrt{\wedge g^2})d\chi
\end{aligned}$$

Differential Volume in  $AdS_5$  graviton of fundamental rout of group.

$$\wedge(F_t^m)'' = \frac{1}{12}g_{ij}^2$$

Quarks of other dimension.

$$\pi(V_\tau) = e^{-(\sqrt{\frac{\pi}{16}} \log x)^\delta} \times \frac{1}{(x \log x)}$$

Universe of rout, Volume in expanding space time.

$$\begin{aligned} \frac{d}{dt}(g_{ij})^2 &= \frac{1}{24}(F_t^m)^2 \\ m^2 &= 2\pi T \left( \frac{26 - D_n}{24} \right) \end{aligned}$$

This quarks of mass in relativity theorem, and fourth of universe in three manifold of one dimension surface, and also this integrate of dimension in conbult of quarks.

$$g_{ij} \wedge \pi(\nu_\tau) = e^{-2\pi T|\psi|} [\eta_{\mu\nu} + \bar{h}_{\mu\nu}(x)] dx^\mu dx^\nu + T^2 d\psi^2$$

Out of rout in  $AdS_5$  space time.

$$||ds^2|| = g_{ij} \wedge \pi(\nu_v)$$

$AdS_5$  norm is fourth of universe of power in three manifold out of rout.

Sphere orbital cube is on the right of hartshorne conjecture by the right equation, this integrate with fourth of piece on universe series, and this estimate with one of three manifold. Also this is blackhole on category of symmetry of particles. These equation conbult with planck volume and out of universe is phologram field, this field construct with electric field and magnitic field stand with weak electric theorem. This theorem is equals with abel manifold and  $AdS_5$  space time. Moreover this field is anti-brane and brane emerge with gravity and antigravity equation restructed with. Zeta function is existed with Re pole of  $\frac{1}{2}$  constance reluctances. This pole of constance is also existed with singularity of complex fields. Von Neumann manifold of field is also this means.

$$||ds^2|| = \lim_{x \rightarrow \infty} [\delta(x) \int \int \int \pi \left( \sum_{k=0}^{\infty} \frac{n \sqrt{p}, x}{n} \right)^{\frac{1}{2}} d\tau]^{\mu\nu}$$

$$e^{i\theta} = \cos \theta + i \sin \theta$$

$$\begin{aligned} e^{x \log x} &= x^{\frac{1}{2} + iy}, x \log x = \log(\cos \theta + i \sin \theta) \\ &= \log \cos \theta + i \log \sin \theta \end{aligned}$$

This equation is developed with frobenius theorem activate with logment equation. This theorem used to

$$\begin{aligned} \log(\sin \theta + i \cos \theta) &= \log(\sin \theta - i \cos \theta) \\ \log \left( \frac{\sin \theta}{i \cos \theta} \right) &= -2R_{ij}, \frac{d}{dt} g_{ij}(t) = -2R_{ij} \end{aligned}$$

$$\mathcal{O}(x) = \frac{\zeta(s)}{\sum_{k=0}^{\infty} a_k f^k}$$



$$\text{Im}f = \ker f, \chi(x) = \frac{\ker f}{\text{Im}f}$$

$$H(3) = 2, \nabla H(x) = 2, \pi(x) = 0$$

This equation is world line, and this equation is non-integrate with relativity theorem of rout constance.

$$[f(x)] = \infty, ||ds^2|| = \mathcal{O}(x)[\eta_{\mu\nu} + \bar{h}_{\mu\nu}(x)]dx^\mu dx^\nu + T^2 d^2\psi$$

$$T^2 d^2\psi = [f(x)], T^2 d^2\psi = \lim_{x \rightarrow 1} \sum_{k=0}^{\infty} a_k f^k$$

These equation is equals with M theorem. For this formula with zeta function into one of universe in four dimensions. Sphere orbital cube is on the surface into  $AdS_5$  space time, and this space time is Re pole and Im pole of constance reluctances.

Gauss function is equals with Abel manifold and Seifert manifold. Moreover this function is infinite time, and this energy is cover with finite of Abel manifold and Other dimension of seifert manifold on the surface.

Dilaton and fifth dimension of seifert manifold emerge with quarks and Maxwell equation, this power is from dimension to flow into energy of boson. This boson equals with Abel manifold and  $AdS_5$  space time, and this space is created with Gauss function.

Relativity theorem is composited with infinite on D-brane and finite on anti-D-brane, This space time restructed with element of zeta function. Between finite and infinite of dimension belong to space time system, estrald of space element have with infinite oneselves. Anti-D-brane have infinite themselves, and this comontend with fifth dimension of AdS5 have for seifert manifold, this asperal manifold is non-move element of anti-D-brane and move element of D-brane satisfid with fifth dimension of seifert algebra liner. Gauss function is own of this element in infinite element. And also this function is abel manifold. Infinite is coverd with finite dimension in fifth dimension of AdS5 space time. Relativity theorem is this system of circustance nature equation. AdS5 space time is out of time system and this system is belong to infinite mercy. This hiercyent is endrol of memolite with genieue of element. Genie have live of telomea endore in gravity accesorlity result. AdS5 space time out of over this element begin with infinite assentance. Every element acknowlege is imaginary equation before mass and spiritual envy.

$$T^2 d^2\psi = \lim_{x \rightarrow 1} \sum_{k=0}^{\infty} a_k f^k$$

$$\lim_{x \rightarrow 1} \sum_{k=0}^{\infty} a_k f^k = [T^2 d^2\psi]$$

$$\frac{d}{dL}V(\tau) = \frac{d}{df} \int \int_M ({}^5\sqrt{x^2})d\Lambda + \frac{d}{df} \int \int_M {}^N({}^3\sqrt{x})^{\oplus N}d\Lambda$$

$${}^M(\vee(\wedge f \circ g)^N)^{\frac{1}{2}} = \frac{d}{df} \int \int_M \frac{1}{(x \log x)^2} dx_m + \frac{d}{df} \int \int_M \frac{1}{(y \log y)^{\frac{1}{2}}} dy_m$$

$$||ds^2|| = \mathcal{O}(x)[\eta_{\mu\nu} + \bar{h}_{\mu\nu}(x)]dx^\mu dx^\nu + T^2 d^2\psi$$

$$\begin{aligned}\mathcal{O}(x) &= e^{-2\pi T|\psi|} \\ G^{\mu\nu} &= R_{\mu\nu}T^{\mu\nu} \\ &= -\frac{1}{2}\Lambda g_{ij}(x) + T^{\mu\nu}\end{aligned}$$

Fifth dimension of eight differential structure is integrate with one geometry element, Four of universe also integrate to one universe, and this universe represented with symmetry formula. Fifth universe also is represented with seifert manifold peices. All after universe is constructed with six element of circuatance. This aquire maniculate with quarks of being espered belong to.

## 2 Imaginary equation in AdS5 space time create with dimension of symmetry

D-brane and anti-D-brane is composited with all of series universe emerged for one geometry of dimension, this gravity of power from D-brane and anti-D-brane emelite with ancestor. Seifert manifold is on the ground of blackhole in whitehole of power pond of senseivility. Six of element of quarks and universe of pieces is supersymmetry of mechanism resolved with

hyper symmetry of quarks constructed to emerge with darkmatter. This darkmatter emerged with big-ban of heircyent in circumstance of phenomena.

D-brane and anti-D-brane equations is

$$\begin{aligned}\frac{d}{dL}V(\tau) &= \frac{d}{df} \int \int_M \frac{1}{(x \log x)^2} dx_m + \frac{d}{df} \int \int_M \frac{1}{(y \log y)^{\frac{1}{2}}} dy_m \\ C &= \int \int \frac{1}{(x \log x)^2} dx_m\end{aligned}$$

Euler constance is quantum group theorem rebuild with projective space involved with.

虚数方程式は、反重力に起因するフーリエ級数の励起を生成する。それは、人工知能を生み出す、5次元時空にも、この虚数方程式は使われる。AdS5の次元空間は、反ド・シッター時空のD-braneとanti-D-braneのcomformal場を生み出す。ホログラフィー時空は、この量子起因によるものである。2次元曲面によるブラックホールは、ガンマ線バーストによる5次元時空の構造から観測される。空間の最小単位によるプランク定数は、宇宙の大域的微分多様体から導き出される、AdS5の次元空間の準同型写像を形成している。これは、最小単位から宇宙の大きさを導いている。最大最小の方程式は、相加相乗平均を形成している。時間と空間は、宇宙が生成したときから、宇宙の始まりと終わりを既に生み出している。宇宙と異次元から、ブラックホールとホワイトホールの力がわかり、反重力を見つけられる。オイラーの定数は、この量子定数からわかる。虚数の仕組みはこの量子スピンの産物である。オイラーの定数は、この虚時空の斥力の現存である。それは、非対称性理論から導かれる。不確定性原理は、AdS5のブラックホールとホワイトホールを閉3次元多様体に統合する5次元時空から求められる。位置と運動エネルギーが、空間の最小単位であるプランク定数を宇宙全体にする微細構造定数からわかり、面積確定から、アーベル多様体を母関数に極限值として、ゼータ関数をこの母関数に不変式として、2種類ずつにまとめる4種類の宇宙を形成する8種類のサーストンの幾何化予想から導き出される。この閉3次元多様体は、ミラー対称性を軸として、6種類の次元空間を一種類の異次元宇宙と同質ともしている。複素多様体による特異点解消理論は、この原理から求められる。この特異点解消

理論は、2次元曲面を3次元多様体に展開していく、時空から生成される重力の密度を反重力と等しくしていく時間空間の4次元多様体と虚時空から求められる。ヒルベルト空間は、フォン・ノイマン多様体とグラスマン多様体をこのサーストンの幾何化予想を場の理論既定値として形成される。この空間は、ミンコフスキー時空とアーベル多様体全体を表している。そして、この空間は、球対称性を複素多様体を起点として、大域的トポロジーから、偏微分を作用素微分として時空間をカオスからずらすと5次元多様体として成立している。これらより、3次元多様体に2次元射影空間が異次元空間として、AdS5空間を形成される。偏微分、全微分、線形微分、常微分、多重微分、部分積分、置換微分、大域的微分、単体分割、双対分割、同調、ホモロジー単体、コホモロジー単体、群論、基本群、複体、マイヤー・ビートリス完全系列、ファン・カンペンの定理、層の理論、コホモルティズム単体、CW複体、ハウストロフ空間、線形空間、位相空間、微分幾何構造、モースの定理、カタストロフの空間、ゼータ関数系列、球対称性理論、スピン幾何、ツイスター理論、双対被覆、多重連結空間、プランク定数、フォン・ノイマン多様体、グラスマン多様体、ヒルベルト空間、一般相対性理論、反ド・シッター時空、ラムダ項、D-brane, anti-D-brane, コンフォーマル場、ホログラム空間、ストリング理論、収率による商代数、ニュートンポテンシャルエネルギー、剛体力学、統計力学、熱力学、量子スピン、半導体、超伝導、ホイーストン・ブリッチ回路、非可換確率論、Connes理論、これら、演算子代数を形成している、微分・積分作用素が、ヒルベルト空間に存在している多様体の特質を全面に押し出して、いろいろな多様体と関数そして、群論を形作っている。

$$\begin{aligned} \begin{vmatrix} D^m & dx \\ dx & \sigma^m \end{vmatrix} \begin{vmatrix} \cos \theta & -\sin \theta \\ \sin \theta & \cos \theta \end{vmatrix} \begin{vmatrix} x \\ y \end{vmatrix} &= \begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 0 & -1 \end{pmatrix}^{\frac{1}{2}} \\ \sigma^m \begin{bmatrix} \delta(x) & -1 \\ 1 & \epsilon(x) \end{bmatrix}^{\frac{1}{2}} &= \begin{pmatrix} i & 0 \\ 0 & -i \end{pmatrix} \\ (D^m, dx) \cdot (\cos \theta, \sin \theta) \times (dx, \partial^m) \cdot (\cos \theta, \sin \theta) & \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 0 & i \end{pmatrix} \beta(x, \theta) \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix} \\ = \begin{pmatrix} i & 0 \\ 0 & -1 \end{pmatrix} \\ l = \sqrt{\frac{\hbar G}{c^3}}, \sigma^m \cdot \begin{pmatrix} \delta(x) & -1 \\ 1 & \epsilon(x) \end{pmatrix}^{\frac{1}{2}} = \begin{pmatrix} i & 0 \\ 0 & -i \end{pmatrix} \end{aligned}$$

String theorem also imaginary equation of pole with the fields of manifold.

$$\begin{aligned} \left( \frac{\partial}{\partial \tau} f(x, y, z) \right)^{3'} &= A^{\mu\nu} \\ \frac{d}{dt} g_{ij}(t) &= -2R_{ij} \end{aligned}$$

Rich equation is all of top formula in integrate theorem.

$$= (D^m, dx) \cdot (\cos \theta, \sin \theta) \times (dx, \partial^m) \cdot (\cos \theta, \sin \theta)$$

Dalanverle equation equals with abel manifold.

慣性の法則と、回転体による反重力

タイミングとともに、別ベクトルとして重力を加える法則 Masaaki Yamaguchi

慣性の法則の慣性力が働くときと同時に、前もって、タイミングを計り、慣性力とともに、逆向きのベクトルとして、慣性力の力と同じエネルギーの重力を生成して、慣性力の影響を無くす。この力を反重力という。慣性力と逆向きのベクトルとして、反重力として、慣性力に加えて、別のベクトルとする。

反重力の本質は、重力のベクトルの違いであり、核エネルギーが特殊相対性理論と一般相対性理論を使って、放射性物質吸収体に、この原理を使い、核エネルギーをリサイクルしている。これを宇宙人は知っていて、UFO にこの原理を使っている。

Higgs 場は、重力であり、周りを反重力が覆っている。一般相対性理論のベクトルの向きを変えた力の装置が、ラムダ・ドライバであり、反重力である。

重力は熱エネルギーである。ベクトルの向きが違う。反重力は吸収体である。慣性の法則が働いているときに、これが手に入ったが、離れたになり、重力をベクトルの向きを変えて、同じエネルギーを加えた場合、量子コンピュータが、そのときの差分を使って、反重力が慣性の法則を変えて、宙に浮く UFO にしている。

まとめると、慣性の法則のときに、重力のベクトルを違う向きとして、加えると、手に入ったが、離れたになり、これが反重力である。

UFO が現れる前に、ヘリコプターが現れて、そのあとに、UFO が実際に現れる。慣性の法則のしばらくして、反重力として、UFO として、宇宙人が人に教えている。

反重力の生成は、回転体の電磁気力からくるちからであり、ローレンツ力と同じでもあり、機体の内部で生成される力であり、そのために、放射性物質吸収体を結晶石として、このエネルギーからくる放射力を吸収するために、結晶石に反重力の放射線を吸収する。その上に、外部の慣性力を内部の反重力で、手に入ったら、離れたをしている。

反重力発生装置の各構成物質 Masaaki Yamaguchi

原子振動子 セシウム Cs

形状記憶合金 (Fe・Co60・Pt・Al) $H_2SO_4$ ,  $Al_2O_3$

反重力発生器 Pr(パラジウム合金) 電磁場生成 He, $H_2$ Mg,Al(摩擦熱)

結晶石 Co60,Pt,Pr の反陽子

緩衝剤 慣性力感知器 有機化合物と S 化合物 (シクロアルカン  $C_nH_{2n}$  方位と位置探知機にも使う

量子コンピュータの量子素子 Pt,Ag,Au (電子と電流のエネルギー経路) 半導体に使う回路の合成演算子

$$x^y = \frac{1}{y^x} \rightarrow$$

$$\pi(\chi, x) = [i\pi(\chi, x), f(x)]$$

$$\frac{d}{df}F = F^{f'}$$

ディスプレイの電磁迷彩 (Al,Mg)  $\rightarrow$  S 合成子  $SiO_2$  プリズム C 特殊相対性理論の虚数回転による多様体積分と、

それによる一般相対性理論の再構築理論 Masaaki Yamaguchi

$$\frac{\partial}{\partial f}F(x) = \int \int \text{cohom}D_k(x)[I_m]$$

Cohomology element is constructed with isotopy of D-brane, and this isotopy of symmetry structure is sheaf of manifold, more over this brane of element is double integrate of projection.

$$\frac{\partial}{\partial f}F = {}^t\mathop{\mathchoice{\int\!\!\int\!\!\int}{\int\!\!\int\!\!\int}{\int\!\!\int\!\!\int}{\int\!\!\int\!\!\int}}^{\mathop{\mathchoice{\int\!\!\int\!\!\int}{\int\!\!\int\!\!\int}{\int\!\!\int\!\!\int}{\int\!\!\int\!\!\int}}}\mathrm{cohom}D_k(x)^{\ll p}$$

$$\frac{\partial}{\partial f}F = {}^t\mathop{\mathchoice{\int\!\!\int\!\!\int}{\int\!\!\int\!\!\int}{\int\!\!\int\!\!\int}{\int\!\!\int\!\!\int}}^{\mathop{\mathchoice{\int\!\!\int\!\!\int}{\int\!\!\int\!\!\int}{\int\!\!\int\!\!\int}{\int\!\!\int\!\!\int}}}\mathrm{cohom}D_k(x)^{\ll p} = \mathop{\mathchoice{\int\!\!\int\!\!\int}{\int\!\!\int\!\!\int}{\int\!\!\int\!\!\int}{\int\!\!\int\!\!\int}}^{\mathop{\mathchoice{\int\!\!\int\!\!\int}{\int\!\!\int\!\!\int}{\int\!\!\int\!\!\int}{\int\!\!\int\!\!\int}}}$$

$$\nabla_i\nabla_j\int f(x)d\eta=\frac{\partial^2}{\partial x\partial y}\int\mathop{\mathchoice{\int\!\!\int\!\!\int}{\int\!\!\int\!\!\int}{\int\!\!\int\!\!\int}{\int\!\!\int\!\!\int}}^{\mathop{\mathchoice{\int\!\!\int\!\!\int}{\int\!\!\int\!\!\int}{\int\!\!\int\!\!\int}{\int\!\!\int\!\!\int}}}d\eta$$

一般相対性理論の加群分解が偏微分方程式と同じく、特殊相対性理論の多様体積分の虚数回転体がベータ関数となる。ほとんどの回転体の体積が、係数と冪乗での回転体として、ベータ関数と言える。

$$\begin{aligned} &= R^{\mu\nu'} + \frac{1}{2}\Lambda g'_{ij} = \int \left( i \frac{v}{\sqrt{1-(\frac{v}{t})^2}} + \frac{v}{\sqrt{1-(\frac{v}{t})^2}} \right) \mathrm{dvol} \\ &= \frac{d}{df} \int \int \frac{1}{(x \log x)^2} dx_m + \frac{d}{df} \int \int \frac{1}{(y \log y)^{\frac{1}{2}}} dy_m \end{aligned}$$

この大域的積分多様体が大域的微分多様体の反重力と重力方程式で表せられて、

$$=\int Cdx_m=\int \kappa T^{\mu\nu}dx_m=T^{\mu\nu}T^{\mu\nu'}$$

オイラーの定数の大域的積分多様体が、一般相対性理論の大域的積分多様体であり、エントロピー不変式で表せられる。

$$\mathop{\mathchoice{\int\!\!\int\!\!\int}{\int\!\!\int\!\!\int}{\int\!\!\int\!\!\int}{\int\!\!\int\!\!\int}}^{\mathop{\mathchoice{\int\!\!\int\!\!\int}{\int\!\!\int\!\!\int}{\int\!\!\int\!\!\int}{\int\!\!\int\!\!\int}}}=\frac{8\pi G}{c^4}T^{\mu\nu}/\log x$$

$$\begin{aligned} & {}^t\mathop{\mathchoice{\int\!\!\int\!\!\int}{\int\!\!\int\!\!\int}{\int\!\!\int\!\!\int}{\int\!\!\int\!\!\int}}^{\mathop{\mathchoice{\int\!\!\int\!\!\int}{\int\!\!\int\!\!\int}{\int\!\!\int\!\!\int}{\int\!\!\int\!\!\int}}}\mathrm{cohom}D_\chi[\mathrm{I}_\mathrm{m}] \\ &= \oint (px^n+qx+r)^{\nabla l} \end{aligned}$$

$$\frac{d}{dl}L(x,y)=2\int ||\sin 2x||^2d\tau$$

$$\frac{d}{d\gamma}\Gamma$$

$$||ds^2||=\lim_{x\rightarrow\infty}[\delta(x)\int\int\int\pi\left(\sum_{k=0}^{\infty}\frac{{}^n\sqrt{p},x}{n}\right)^{\frac{1}{2}}d\tau]^{\mu\nu}$$

$$\oint\!\!\!\!\!\oint\cong ||ds^2||=\lim_{x\rightarrow\infty}[\delta(x)\int\int\int\pi\left(\sum_{k=0}^{\infty}\frac{{}^n\sqrt{p},x}{n}\right)^{\frac{1}{2}}d\tau]^{\mu\nu}$$

$$e^{-2\pi T||\psi||}[\eta+\bar{h}]dx^\mu dx^\nu+T^2d^2\psi$$

$$\frac{-16\pi G}{c^4}T^{\mu\nu}/\log x=\not\Box$$

$$\frac{-16\pi G}{c^4}T^{\mu\nu}/e^{-2\pi T||\psi||}\\[4pt]=4\pi G\rho$$

$$\frac{\partial}{\partial x \partial y} = \nabla_i \nabla_j$$

$$\Box \int \int \int = {}^t \overline{\int \int \int}$$

$$\frac{\partial}{\partial x}\int\int\int=\nabla_i\nabla_j\int\nabla f(x)d\eta$$

$$\frac{\partial}{\partial f}\int\int\int=\Box\int\int\int$$

$$\mathbb{T}|\Gamma,\mathfrak{A}|B$$

$$\mathfrak{A}|E,\mathbb{O}|C$$

$$\mathfrak{A}|F,\mathfrak{d}|\beta$$

$$\mathbb{Q}|D, {}^t\overline{\int\!\!\!\!\!\int}\cong\bigoplus D^{\oplus L}$$

$$\Box+\not\Box=\emptyset$$

$$\not\Box|_{\emptyset}=\Box$$

$$x^{\frac{1}{2}} \cong x, \emptyset^{\frac{1}{2}} = \emptyset$$

$$\begin{aligned}
\frac{d}{df}F &= (F)^{f'}, \int F dx_m = (F)^f \\
\frac{d}{df} \int \int \frac{1}{(x \log x)^2} dx_m &= \left( \int \int \frac{1}{(x \log x)^2} dx_m \right)^{f'} \\
f' &= (2x(\log x + \log(x+1))) \\
\int \int F dx_m &= \left( \frac{1}{(x \log x)^2} \right)^{(\int 2x(\log x + \log(x+1)) dx)} \\
&= e^{-f} \\
\frac{d}{df}F &= \left( \frac{1}{(x \log x)^2} \right)^{(2x(\log x + \log(x+1)))} \\
&= e^f
\end{aligned}$$

$$\log(x \log x) \geq 2(y \log y)^{\frac{1}{2}}$$

$$\log(x \log x) \geq 2(\sqrt{y \log y})$$

$$\begin{aligned}
||ds^2|| &= 8\pi G \left( \frac{p}{c^3} + \frac{V}{S} \right) \\
\int ||ds^2|| dx_m &= \int 8\pi G \left( \frac{p}{c^3} + \frac{V}{S} \right) \text{dvol} \\
\int ||ds^2|| dx_m &= \int 8\pi G \left( \frac{p}{c^3} + \frac{V}{S} \right) dy_m \\
\int ||ds^2|| dx_m &= \int \frac{1}{8\pi G \left( \frac{p}{c^3} + \frac{V}{S} \right)} dx_m
\end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
\frac{d}{df}F &= m(x), \bigoplus \left( i\hbar \nabla \right)^{\oplus L} \\
&= \nabla_i \nabla_j \int \nabla f(x) d\eta
\end{aligned}$$

$$dx_m=\frac{y}{\log x}, dy_m=\frac{x}{\log x}$$

$$e^{-f}dV=dy_m=\text{dvol}$$

偏微分は加群分解と同じ計算式に行き着く。

宇宙と異次元の誤差関数のエネルギー、 $AdS_5$  多様体がベータ関数となる値の列が、異次元への扉となっている。

$$\begin{aligned}
\beta(p,q) &= \text{誤差関数} + \text{Abel 多様体} \\
&= AdS_5 \text{ 多様体}
\end{aligned}$$



$$= \frac{d}{df} F + \int C dx_m = \int \Gamma(\gamma)' dx_m$$

ここで、アーベル多様体は Euler product である。ベータ関数の数列がわかると、ゼータ関数は無であるというのが、どういうことかが、物、物体に影ができて、ものが瞑想と同じであり、これから、風景がベータ関数の数値列に見えるらしい。映画のマトリックスの始めのシリーズでのネオの最後の覚醒と、この風景が電子の流れが、現実では、ものに影らしい。ものの生成物のフダの意味までもついているらしい。苔米地博士の私の秘密教えますの本と同じ能力らしい。

この大域的微分多様体のガンマ関数が、複素力学系のマンデルブロ集合のプリズムと同じ構造の見方らしい。

$$||ds^2|| = e^{-2\pi G||\psi||} [\eta + \bar{h}(x)] dx^\mu dx^\nu + T^2 d^2\psi$$

$$\beta(p,q) = \text{誤差関数} + \text{Abel 多様体}$$

$$\int \mathrm{dvol} = \square \psi$$

$$\int \nabla \psi^2 d\nabla \psi = \square \psi$$

$$\text{expanding of universe} = \text{exist of value}$$

$$= \log(x \log x) = \square \psi$$

$$\text{freeze out of universe} = \text{reality of value}$$

$$= (y \log y)^{\frac{1}{2}} = \nabla \psi$$

All of value is constance of entropy, universe is freeze out constant, and other dimension is expanding into fifth dimension of inner.

$$x^n + y^n = z^n, \beta(p, q) = x^n + y^n - \delta(x) = z^n - \delta(x)$$

$$\frac{d}{dt} g_{ij} = -2R_{ij}, \frac{\cos x}{(\cos x)'} \cdot (\sin x)' = z_n, z^n = -2e^{x \log x}$$

$$z=e^{-f}+e^f-y$$

$$\beta(p,q)=e^{-f}+e^f$$

相対性は、暗号解読と同じ仕組みの数式を表している。ここで言うと、y が暗号値である。チェックディジットと同じ仕組みを有している。

$$\square x = \int \frac{f(x)}{\nabla(R^+ \cap E^+)} d\square x$$

$$= \int \frac{\Delta f(x) \circ E^+}{\nabla(R^+ \cap E^+)} \square x$$

$$\square x = \int \frac{d(R \nabla E^+)}{\nabla(R^+ \cap E^+)} d\square x$$

$$=\int \frac{\nabla_i \nabla_j (R+E^+)}{\nabla (R^+ \cap E^+)} d\Box x$$

$$x^n+y^n=z^n$$

$$\exp(\nabla(R^+\cap E^+),\Delta(C\supset R))$$

$$=\pi(R_1\subset \nabla E^+)=\mathrm{rot}(E_1,\mathrm{div} E_2)$$

$$xf(x)=F(x),s\Gamma(s)=\Gamma(s+1)$$

$$Q\nabla C^+=\frac{d}{df}F(x)\nabla\int\delta(s)f(x)dx$$

$$E^+\nabla f=\frac{e^{x\log x}\nabla n!f(x)}{E(x)}$$

$$\frac{d}{df}F\;F^{f'}=e^{x\log x}$$

$$(C^\nabla)^{\oplus Q}=e^{x\log x}$$

$$\frac{d}{dt}g_{ij}=-2R_{ij},\frac{\cos x}{(\cos x)'}\cdot(\sin x)'=z_n,z^n=-2e^{x\log x}$$

$$R\nabla E^+=f(x)\nabla e^{x\log x},\frac{d}{df}F=F^{f'}=e^{x\log x}$$

南半球と単体（実数）の共通集合の偏微分した変数をどのような F(x) かを

$$\int \delta(x) f(x) dx$$

と同じく、単体積分した積分、共通集合の偏微分をどのくらいの微分変数を

$$\int \nabla \psi^2 d\nabla \psi = \Box \psi$$

と同じ、

$$\int dx = x + C (C \text{ は積分定数})$$

と原理は同じである。

Beta function is,

$$\beta(p,q)=\int x^{1-t}(1-x)^tdx=\int t^x(1-t)^{x-1}dt$$

$$0\leq y\leq 1,\int_0^1x^{10}(1-x)^{20}dx=B(11,21)$$

$$=\frac{\Gamma(11)\Gamma(21)}{\Gamma(32)}=\frac{10!20!}{31!}=\frac{1}{931395465}$$

$$\frac{1}{931395465}=\frac{1}{9}=\frac{1}{1-x}$$

$$=\frac{1}{1-z}=\sum_{k=0}^\infty z^k=\frac{1}{1+z^2}=\sum_{k=0}^\infty (-1)^k z^{2k}$$

$$f(x) = \sum_{k=0}^{\infty} a_k z^k$$

$$\frac{d^n y}{dx^n} = n! y^{n+1}$$

$$f^{(0)}(0) = n! f(0)^{n+1} = n!$$

$$f(x) \cong \sum_{k=0}^{\infty} x^n = \frac{1}{1-x}$$

In example script is,

$$\frac{dy}{dx} = y^2, \frac{1}{y^2} \cdot \frac{dy}{dx} = 1$$

$$\int \frac{1}{y^2} \frac{dy}{dx} dx = \int \frac{dy}{y^2} = -\frac{1}{y}$$

$$-\frac{1}{y} = x - C, y = \frac{1}{C - x}$$

$$\exists x = 0, y = 1$$

in first value condition compute with

result, C consumer sartified,

$$y = \frac{1}{1-x}$$

This value result is concluded with native function from Abel manifold.

Abelian enterstane with native funtion meltrage from Daranvelcian equation on Beta function.